

国分寺市図書館利用者懇談会 平成24年度第1回

もとまち図書館	日 時	9月18日(火)	午前10時～11時30分
	場 所	もとまち公民館	会議室
	参加者	市民8名(男性3名・女性5名)	
本多図書館	日 時	9月19日(水)	午後4時～5時30分
	場 所	本多公民館	集会展示室
	参加者	市民7名(女性7名)	
並木図書館	日 時	9月28日(金)	午前10時～11時30分
	場 所	並木公民館	会議室
	参加者	市民2名(男性1名・女性1名)	
光図書館	日 時	10月2日(火)	午後14時～15時30分
	場 所	光公民館	小会議室
	参加者	市民1名(男性1名)	
いずみホール	日 時	10月4日(木)	午前10時～11時30分
	場 所	いずみホール	会議室
	参加者	市民8名(男性1名・女性7名)	
恋ヶ窪図書館	日 時	10月6日(土)	午前10時30分～12時
	場 所	恋ヶ窪図書館	おはなし室
	参加者	市民6人(男性5人・女性1人)	

配付資料：「平成23年度 国分寺市立図書館の状況」

「国分寺市子ども読書活動推進計画 概要版」

平成 24 年度第 1 回 国分寺市図書館利用者懇談会（もとまち図書館）

日 時 平成 24 年 9 月 18 日（火） 午前 10 時～11 時 30 分
場 所 もとまち公民館 会議室
参加者 市民 8 名（男性 3 名・女性 5 名）

1. 国分寺市立図書館の現状等について

配布資料「平成 23 年度国分寺市立図書館の状況」に基づき説明。

もとまち図書館では、住民生活に光をそそぐ交付金で、道路側窓のカーテンの取替、児童コーナーの椅子、ブックトラック、大型絵本書架、絵本用書架、講演会用マイクの購入と、絵本・辞書などの図書を購入。

緊急雇用創出事業補助金で、21 年度から I C タグの貼付を始め、23 年度は並木図書館の蔵書に貼付。全館で C D 研磨。

平成 24 年度については、予算（図書費等資料費の削減等）、第二次子ども読書活動推進計画の策定、緊急雇用創出事業（閉架書庫整理、光図書館蔵書の一部に I C タグ貼付、本多・光図書館文庫本背ラベル貼付）等説明。

2. 図書館サービスについて

意見：日頃、駅前分館を利用している。以前もとまち図書館でリクエストした際に、購入して提供していただいたり、色々と調べていただき感謝している。子ども時代に本を読むということの大切さを痛感している。その頃に覚えたことは今でも覚えている。平成 30 年度開館予定の駅前図書館について知りたい。今よりスケールの大きいものを望む。また泉町に移転の都立多摩図書館の現在の状況はどうなっているのか。

図書館：平成 30 年に再開発ビルが完成し、西街区ビルの 5 階に公益施設（市民課サービスコーナー、L ホール、図書館）が入る予定。現在の駅前分館は北口再開発に伴い来春移転予定だが移転先は未定。

都立多摩図書館については、平成 28 年 3 月開館予定。基本設計が終了し、これから実施設計に入る。平成 26 年から建設。教育長、教育次長、本多図書館長で都立多摩図書館内に国分寺市の貸出窓口の設置をお願いしに行った。マガジンバンクのある図書館なので利用していただけたと思う。

意見：再開発ビル内の図書館については、できるだけ大きくしてほしい。

意見：アウトソーシングはその後どうなっているのか。

図書館：図書館は市の行革推進本部でアウトソーシングの対象施設となっている。平成 23 年 12 月に内部行革し直営で行いたい旨、教育委員会に提出

し承認されたが、今年2月に行革推進本部より多様な検討をすること、正規職員が担うべき業務は何かを明確にすることを再度検討するようにいわれた。再検討し、8月にコスト削減を図り直営で行う方針を提出し、教育委員会で承認頂き、文教委員会で報告した。行革推進本部の検討はこれからである。

意見：国分寺市の図書館は、昭和48年から5館構想で進めてきた。民間は商売っ気が出てくる。メリットもあるが、デメリットも出てくる。時代の流れでしょうがないのだろうが、アナログ的な部分も必要だと思う。

意見：大きな曲がり角に来ている。慌てて結論をだして決めない方がいい。図書館の利用者を増やしたい。貸出業務だけでなく、利用者を増やすためのPRを考えてほしい。「図書館だより」も年2回は少ない。文字も小さい。公民館・図書館は地域になくてはならないもの。コミュニティを担ってほしい。

意見：使い勝手が悪くならないように、そしてサービス低下にならないようにしてほしい。図書費削減について苦情はないのか。

図書館：リクエスト本購入冊数の調整、旅行ガイドの買換えサイクルの変更などで対応している。書籍より雑誌へのご意見が多く寄せられている。

意見：今年の苦情を集めて、しかるべき部署へ訴えてほしい。もとまち図書館の利用が減少しているのが気になる。

図書館：耐震工事で3ヶ月休館した時に、駅前分館を利用されていた方が、現在もとまち・駅前分館を上手に利用されている。市内全館とも、震災後は計画停電・節電休館等、落ち着かない状態だった。

意見：地域の図書館と謳っているが、看板も少なく場所が分からない。

意見：公民館と図書館が、同じ建物にあるので連携を密に取ってほしい。

3. 第二次国分寺市子ども読書活動推進計画について

配布資料「国分寺市子ども読書活動推進計画 概要版」に基づき第二次計画の説明。

意見：もとまち図書館は、子どもの読書に関わる多くの事業を行っており、子どもの読書活動を担っていると評価している。先ほど小学校低学年から中学年、高学年、中・高校生になるにつれて利用が落ちていくという説明だったが、自分が青年時代は高校生の頃一番本を読み、人生に影響を与えた本も読んだ。今はどうなっているのか。

図書館：基本的に、第一次計画の内容を、第二次計画でも継続して行っていく。課題の一つは中・高校生向けのサービスだと思っている。高校生向けのリストなどを作成しているが、この年代向けの事業ができていない。大

きな課題だと考えている。

意見：現代は無縁社会である。いじめ問題も起こっている。「いじめはいけない」という発信をいろいろな機会をとらえて、図書館を含めて地域ぐるみで行う必要がある。

意見：子どもが絵本を探せない。絵本の棚に行って端から順にみても見つからずあきらめている。絵を描いた人の名前順とか、背の高い本は下の段に入っているなどについて、わかりやすいように表示の工夫や探し方のPRをしてほしい。

意見：中学生の課題図書についてだが、読書感想文コンクールの課題図書が入手できなかった。国分寺市は所蔵していなくて、検索したら府中市にもあまりなかった。買って読まない后感想文が書けないのか不思議だ。

意見：読書感想文のことでは、ずっと感想を求めないで親子で読書を楽しんできたのに、今になって夏休みの宿題として取り組まなければならない親子で苦しんでいる。

図書館：購入本は選定会議で決めるが、そこで漏れてしまうこともある。図書館になればリクエストしてもらいたい。

図書館：リクエストが集中すると複数冊購入して用意することもある。課題図書については、2年前までは市教研がリストを出していて、図書館でも連携して夏休みに棚に展示し借りやすいようにしていたが、今はリストの作成ができなくなったようだ。リストは出版社が出しているものや取次が出しているものなど様々あり、図書館でも情報収集しているが、漏れてしまうものもあるので教えてほしい。

意見：困ったことがあったら声をかけてほしいというアピールをもっとしてほしい。図書館員には声をかけにくい。せつかくの知識がもっていないのでぜひ考えてほしい。

意見：文庫をしている。パネルシアターや大型紙芝居などを整備してもらい、おはなし会が充実して助かっている。イベントを行う時も図書館がおはなしに来てくれたり、小学校へのおはなしの出前など自分たちができないことを図書館が引っ張って行って助かっている。アウトソーシングについては、直営で長く仕事に取り組んでいる正職員が、きちんと配属される状態が長く続くように願っている。

意見：子ども読書活動推進計画の第一次は、頑張ってくれていると思う。読書について、幼少期に身につけることの重要性とともに、両親の読書観も重要だと思う。両親が読書する人だと本から得た情報がどんどん入ってくる。幼少期に本に対する十分なアプローチを受けられることになる。また、「図書館だより」について意見がある。年2回では少ないのではな

いか。市報も月2回出ている。隔月か毎月1回に、「図書館だより」を増やしてほしい。

意見：意見を言いつぱなしにするのではなく、利用者を増やすにはどうしたら良いか等、一緒に考えていく場を検討してほしい。

図書館：今日のご意見をありがとうございました。また気がついたことがありましたらご意見をお寄せください。

平成 24 年度第 1 回 国分寺市図書館利用者懇談会（本多図書館）

日 時 平成 24 年 9 月 19 日（水） 午後 4 時～5 時 30 分
場 所 本多公民館 集会展示室
参加者 市民 7 名（女性 7 名）

1. 国分寺市立図書館の現状等について

配布資料「平成 23 年度国分寺市立図書館の状況」に基づき説明。

本多図書館では、住民生活に光をそそぐ交付金で、おはなしの部屋に本棚を設置、乳幼児絵本などの図書を購入。

緊急雇用創出事業補助金で、21 年度から I C タグの貼付を始め、23 年度は並木図書館の蔵書に貼付。全館で C D 研磨。

平成 24 年度については、予算（図書費等資料費の削減等）、第二次子ども読書活動推進計画の策定、緊急雇用創出事業（閉架書庫整理、光図書館蔵書の一部に I C タグ貼付、本多・光図書館文庫本背ラベル貼付）等説明。

2. 図書館サービスについて

意見：数年前に休館したのは I C タグのためか。I C タグは全館の蔵書に貼付しないのか。

図書館：平成 21 年度の休館は、館内の空調設備をガスから電気に変更するための工事休館だった。耐震工事のために休館した館もあったが、本多では耐震については大丈夫だった。I C タグは今後各図書館で貼付を予定している。

3. 第二次国分寺市子ども読書活動推進計画について

配布資料「国分寺市子ども読書活動推進計画 概要版」に基づき第二次計画の説明。

意見：資料にある「定例のおはなし会」に本多図書館が入っていない。おはなしグループのおはなし会に職員も参加しているので、それは明記してほしい。

図書館：本日の配布資料では、図書館主催のおはなし会を載せている。おはなしグループのおはなし会への職員の参加は別に記録している。

意見：本多図書館の小学校へのおはなしの出前は三小と七小にいつているのか。二中には行っていないのか。

図書館：おもに七小で行っている。基本的に、依頼をいただいての実施になる。

二中ではブックトークを行ったことがある。中学校へのおはなしの出前を充実させることは図書館のこれからの課題。他に、市内では五小、八小のサマースクールに図書館が参加している。

意見：サマースクールについては、所属するおはなしグループでも依頼を受けたことがあるが、その時は定例のおはなし会とぶつかり断った。図書館が参加するのはよい試みである。「七小だより」に図書館のおはなしの出前事業が載っていたのを見た。

意見：読み聞かせに向く本のリストの新しい版が出るといい。

図書館：他の利用者からも希望がでており、今後2冊目を作成する予定。また、昨年度からYA世代の啓発に、中学生・高校生世代向けの図書館からのおすすめ本リスト「DOH」、「DOH+」を発行している。乳幼児に関しては、「ママ・パパ赤ちゃんのためのブックリスト」を発行している。いずみプラザで行われている3・4カ月検診の場でこのリストを配布している。

意見：やはりカラーだと手に取りやすく見やすい。

図書館：住民生活に光を注ぐ交付金でカラー印刷で作成した。好評でよかった。

意見：近年資料費の予算が削減されている中、このようなきれいで見やすいリストが作られるのは喜ばしい。最近できた紙芝居リストもよい。

図書館：紙芝居リストは、行事で使えるものをテーマに、2号まで作成した。子ども読書活動推進計画の一環として、学校に読書についてのアンケートをとった。本が好きかの問いには、低学年は「好き」、「どちらかといえば好き」が合わせて9割だった。学年が上がると割合は落ちて行くが、中学校でも過半数は「好き」、「どちらかといえば好き」が選ばれている。アンケートには、好きな作家を問う項を設けたのだが、学年が上がるとゲーム関連の書籍の作家名が増える。

意見：マンガを一人で読むような年齢になると、マンガの読書量が増えてくる。しかし、年齢が上がるとまたマンガと並行して活字の読書に戻ってくる子もいる。マンガも一概に悪いとは言えない。

図書館：昨今は読書の形態が多様化している。第一次の計画策定時はちょうど携帯小説の人气が高まっていた。最近話題にあがってくるのは電子書籍。まだコンテンツが揃っていないが、マンガは多く発行されている。

意見：学校司書が全校に配置されたのは良かった。学校図書館に活気が感じられる。書架が整い、本もきれいになった。子どもたちにとって大変良いことだと思う。

意見：ブックファーストについては、国分寺ではどのようになっているのか。実施には予算がかかるが、乳幼児に本を届ける機会を多くしたい。生ま

れた頃から皆で見守り，本を通して関わりをもつことで，将来的には虐待の減少にもつながるのではないだろうか。

図書館：毎年1千人くらい新生児がいて，ブックスタートを行うには100万円以上かかる。ブックスタートも本を手渡す方法の一つだが，国分寺市ではいろいろと模索した結果，3・4カ月検診でのブックリスト配布がその足がかりとなっている。乳幼児向けの「小さい子のためのおはなし会」もそれと前後してスタートした。

意見：お母さんにとっては，子育て中に行き場があるということがとても大事だと思う。図書館に行くとなんかいるというのは大変に心強いこと。乳幼児のおはなし会がそのような場になるとよい。

図書館：どうやって子どもたちに来館してもらうかは，常に図書館の課題となっている。

意見：おはなしグループのおはなし会で，新しい子が数人来ていた。友達との繋がりや来たようだった。そのようなつながりを持てる場にしていきたい。

図書館：図書館の行事については震災の影響があり，一年遅れで本多図書館も児童向けの映画会を昨年ようやく行うことができた。いろいろな方法で子どもが来るきっかけづくりをしたい。大きい子向けのおはなし会は，恋ヶ窪・もとまち図書館では以前から行っており，昨年度始めた並木・光図書館に続いて，12月から本多図書館でも始める。

意見：大きい子とは高学年を指すのか。

図書館：幼児から低学年を想定している。おはなし会は月に1回の予定。子どもたちが，子ども時代に本に親しむ時間をたくさんつくれるようにしたい。なお，乳幼児については，3・4カ月検診のあとに1歳6カ月検診でのブックリスト配布の予定もあったが，とてもデリケートな年齢であるため，検診時に図書館が入っていくのはとても難しい。担当課とも相談した上，無理だと判断した。乳幼児と本をつなぐ方法として代わりになるものを検討している。図書館と学校間や学校同士の本の運搬については，今はまだ動いていない。第一次計画で達成できなかったものは引き続き行い，第二次計画につなげていきたい。

意見：学校図書館が明るくなった印象がある。

図書館：館内の掲示などで，図書館の印象はとても変わる。図書館システムが入り，学校図書館から市立図書館の蔵書検索・申込ができるようになった。総合学習の資料の依頼も，従来の電話・FAXに加えて，システム上で申込ができるようになった。

意見：乳幼児絵本の本棚がおはなし室に設置された当初は，おはなしグループ

のおはなし会を行う際に、戸惑い使いづらかった。最近では、公民館で部屋をとり練習や準備を行うことで少しずつ慣れてきた。おはなし会に来る子どもが年々低年齢化している印象がある。幼稚園生はお母さんがついてくるので、お母さんたちの触れあう場にもなっている。私立の学校の子が結構来ている。地域の公立の学校に比べて友達づくりが難しい子どもたちが、友達づくりができた、本を楽しんだりする場となればよい。長年やっていると、兄弟・家族ぐるみで継続してくれてきている子どもも多く、嬉しいことである。

図書館：小学校へおはなしの出前で行った時に、子どもがおはなしを聞くことにとても慣れていると感じた。やはり幼い頃から読み聞かせ、おはなしを聞く経験をしていると、「聞く」「読む」力になると実感した。

意見：昔、子どもとして参加していた子が、親となって子どもを連れてくることもあり、とても嬉しく思う。

図書館：図書館の蔵書について、児童書の発行冊数は年間3千から4千冊と、量としては昔と大幅な変化はない。昔ながらの、読み継がれてきた定番もおさえつつ、調べ学習の多い社会や科学の分野では、新しい動向が分かるものも必要である。20年から30年のスパンで蔵書を考えられる司書の力が必要だと感じている。

意見：異動はあると思うが、やはり司書が長くいる図書館が望ましい。

図書館：他にご意見、質問などないようであれば、終了する。本日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございました。

平成 24 年度第 1 回 国分寺市図書館利用者懇談会（並木図書館）

日 時 平成 24 年 9 月 28 日（金） 午前 10 時～11 時 30 分
場 所 並木公民館 会議室
参加者 市民 2 名（男性 1 名・女性 1 名）

1. 国分寺市立図書館の現状等について

配布資料「平成 23 年度国分寺市立図書館の状況」に基づき説明。

並木図書館では、住民生活に光をそそぐ交付金で、YA コーナーの書架、大型絵本書架等の購入と、絵本・辞書などの図書を購入。

緊急雇用創出事業補助金で、21 年度から IC タグの貼付を始め、23 年度は並木図書館の蔵書に貼付。全館で CD 研磨。

平成 24 年度については、予算（図書費等資料費の削減等）、第二次子ども読書活動推進計画の策定、緊急雇用創出事業（閉架書庫整理、光図書館蔵書の一部に IC タグ貼付、本多・光図書館文庫本背ラベル貼付）等説明。

2. 図書館サービスについて

意見：貸本マンガの研究をしている。図書館でのマンガの位置づけはどうなっているのか。昭和 30 年から 40 年代にかけて全国に貸本屋があった。貸本用の本を出版社が出しており、それを貸本屋さんが購入・装備して期限票をつけて 10 円位で借りられた。40 年代に入ると衰退したが、集団就職の人たちなども利用していた。駅前分館で地域資料を利用している人を殆ど見ない。駅前再開発の西街区 5 階に入る図書館は地域資料の図書館ではなく、一考してもらいたい。公益床 160 m²を確保して充実させてほしい。それに先立ち、今ある駅前分館は、2013 年に建替のため移転する際は、必ず継続して開館し、再開発ビルへの権利を確保してほしい。

図書館：駅前分館については現在の内容をどう発展させていくか、住民が約 500 世帯増加することもあり、周辺の住民サービスも含めコンセプトを考えていかななくてはならない。今ある施設の意義も考え、電子書籍の発達も考慮する必要がある。分館の移転先については駅のそばに仮設の分館を設置する方向で考えているが、詳細はまだ決まっていない。マンガについては、作品として本に匹敵するマンガが多数ある。貸出している図書館もあり、国分寺市でも過去に所蔵していたが、粉失なども多く、現在スペースや予算の課題もあり購入していない。大きい意味で課題。国分寺市では今のところ実用マンガは所蔵しているが、ストーリーマンガは

所蔵していない。

意見：文庫版のマンガも入れないのか。

図書館：新潮文庫でつげ義春の作品などは入れている。

意見：せめて文庫本になったものは入れてほしい。高齢者が読む読み物の中にマンガがあっても良いのではないか。

3. 第二次国分寺市子ども読書活動推進計画について

配布資料「国分寺市子ども読書活動推進計画 概要版」に基づき第二次計画の説明。

意見：並木図書館のおはなし室でおはなし会を行っているグループに所属している。図書館側からグループの活動について気づいたことがあれば教えてほしい。当初、小学生を対象にしたおはなし会を行っていたが参加者が減少し、幼児向けのおはなし会に変えてきた。幼児期から読書の楽しさと出会い、小学生への利用につなげられるように考えた。おはなし会も子どもの居場所づくりと捉えている。参加している親子で時々おはなし会の終わった後など騒がしくなり心配している。なるべく注意しているが、図書館の許容範囲はどのぐらいか。また、おはなし会について図書館がどう思っているか。図書館も単独で立ち上がるのではなく、様々なつながりの中で活動することが大切だと思う。今、公民館が有料化になるという話を聞くが、有料化になれば公民館を居場所としていた高齢者が図書館に流れてくるのではないか。公民館の中に雑誌を読むスペースを作るなど対策を考えられないか。

図書館：高齢者の利用者は、例えば図書館で囲碁・将棋の雑誌を借りたり新聞などを見て、公民館で囲碁・将棋をしたりと施設をうまく利用している。有料化については公民館で利用者の意見を伺いながら、検討を進めている。おはなし会は騒がしいことは気にならない。図書館は、小さい子から高齢者まで使う施設だと説明しご理解願っている。構造上児童・一般の書架がワンフロアであるが特に苦情はない。

図書館：図書館で高齢者の姿がよく見られる。市内では開館前から並んでいる方もいる。ただ、居場所としてとらえると、図書館にはあまりスペースがない現状である。スペースはなかなか取れないが、居場所づくりは必要だと思っている。公民館の有料化については、共に学んでゆくという社会教育の基本を押さえてのことになると思う。少なくともロビーは有料化の対象外だと思うが、説明会が開かれるのでご意見を寄せてほしい。

意見：「教育」は有料化とは別と考えたい。学びたいという気持ちやボランティアの精神をバックアップするのが行政なのに、それを削る様なことはし

ないでほしい。また、現在図書館には有資格者の正職員がいると思うが、利用者の声が直接、確実に行政に届くように、公民館・図書館は指定管理者制度を導入せず市の直営でしてほしい。児童館が指定管理になって、当初3年間は館長・スタッフとも素晴らしかったが、その後人が変わり雰囲気が変わったように思う。

図書館：子ども読書活動推進計画は、第一次計画の目的・意義・柱はそのままに第二次計画に継承する。基本的に第一次計画で行ってきた新規事業はそのまま継続する。第一次計画策定前は、学校図書館の司書が常駐でなく、読み聞かせの場が充実していなかった。また中・高生の読書離れの状況があり、それらを解消することが課題だった。この5年間で司書が常駐となり調べ学習なども充実してきた。それに伴い安定的な資料の流れを確保するため、本の物流が課題となっている。一方、家庭に対しては補助金で各種リストをカラー化して発行した。市民のおはなしグループなどと図書館が共同で作成した「小学生へのよみきかせに向く絵本のリスト」は好評で、改定版の作成を行う予定。計画の策定にあたり小・中学生にアンケートを行った。読書環境が良くなってきた結果、「読書が好き」「どちらかというが好き」と回答した小学生は85%、中学生では72%の子が「はい」と答えている。読書が好きだという素地があるので、YA（ヤング・アダルト）世代に向けて発信していけるものができたらいいと思っている。図書館に職場体験やボランティアが来ると、おはなし会の日には必ず読み聞かせをしてもらっている。

意見：読書から遠ざかっている中学生には、絵と字に触発されて笑う経験もいいのではないか。絵本の中には、簡単に共鳴できる何かを見つけることができ、惹きつけることができる。パッと目から入って語句が少ないマンガやケータイと、読めば読むほど味わい深い絵本の違いをなるべく多くの人に気づいてもらいたい。

図書館：第二次計画については、第一次計画で培ってきたものは継続して行っていきたい。第一次計画の中で取り組めなかったものもあるが、学校図書館との関係は次のステップに入っていく。おはなしグループへの支援は、エプロンシアター・パネルシアター等を購入し図書館の資料の幅を広げてきている。

意見：学校司書との懇談会をしているのか。

図書館：年3回実施している。今年度2回目は本多図書館を会場に行う予定。

意見：学校図書館と市立図書館の利用は、リンクできているのか。

図書館：情報が行き交うかたちにはなっていない。公共と学校では図書館の役割がちがう。地域の図書館が、それぞれ近くの学校と日常の情報交換を

行っているが、全体的な話になると難しい。司書の研修は学校指導課が「学校図書館司書連絡会」を年5回行っている。司書が1校に一人しかいないので情報スキルの共有化が図られている。

意見：六小はボランティアを入れて司書を手伝いながら運営していて、朝の読書も長年やっており活動が盛んだ。

図書館：公共の支援としては、どうすれば双方に有意義なことができるか、考えていかななくてはならない。学校図書館電算システムが入ったので本多図書館をターミナルにして利用してもらっている。

意見：普通「こども」というと小学生、就学直前から小学生というイメージだが、もう少し下の子どもたちをおはなし会の対象に考えている。母親たちは雑多な情報に囲まれている一方、公民館の上に図書館があることを知らない人が大多数。子どもが小学校に入学し読み聞かせの当番が回ってきて初めて読書に向きあう。幼稚園児の母親に対し、「図書館という建物があり絵本がある、図書館は小さいお子さんもお母さんも楽しめる場所です」というPRをもっとしてほしい。母親は情報をキャッチするのに一生懸命で、図書館で絵本を見る時間の過ごし方に気づけない。「テレビでしているおはなしの絵本がこの図書館にありますよ、お母さんも手にとってみませんか」という呼びかけからでもいいのではないか。

意見：パネルシアターについては、たくさんの作品の内容・ストーリーを比較したい。高価で各館に潤沢に所蔵できないのであれば、期間を区切って各館展示期間を設け、自由に触ってみることができるようにしたらどうか。そうすれば小学校や幼稚園のお母さんたちも目で見てわかる。情報も早く伝達できる。利用方法のパンフレットも持ち帰れるようにすればよい。皆さんが使いたいはずだが、触れないとなかなか利用につながらない。また、パネルシアターなどを貸す時に、絵本をセットにして貸したらどうか。ただの娯楽というだけでなく本と結び付けていくことが大事。

図書館：確かに本に結び付けていくことが大事だと思う。図書館の映画会でも本を紹介している。

意見：高齢者対策を子ども読書活動の計画のように考えていけないか。小・中学校で覚えたことは今でも良く覚えている。団塊の世代は「本は買うもの」と育てられた人が多い。図書館が無料で本が借りられることも知らない。「無料で12冊借りられる図書館に行こう」などのPRが図書館は少ない。図書館を知らせることをすべきだ。

意見：おはなし会も、読み聞かせが好きであれば、高齢者の方も大歓迎です。

図書館：今日は、お忙しい中、貴重な意見をいただきありがとうございます。

平成 24 年度第 1 回 国分寺市図書館利用者懇談会（光図書館）

日 時 平成 24 年 10 月 2 日（火） 午後 14 時～15 時 30 分
場 所 光公民館 小会議室
参加者 市民 1 名（男性 1 名）

1. 国分寺市立図書館の現状等について

配布資料「平成 23 年度国分寺市立図書館の状況」に基づき説明。

光図書館では、住民生活に光をそそぐ交付金で、本棚と図書を購入。

緊急雇用創出事業補助金で、21 年度から I C タグの貼付を始め、23 年度は並木図書館の蔵書に貼付。全館で C D 研磨。

光図書館では、平成 23 年 5 月から、週 1 日水曜日午後 8 時まで夜間開館を開始。展示スペースの「仕事コーナー」設置について説明。

平成 24 年度については、予算（図書費等資料費の削減等）、第二次子ども読書活動推進計画の策定、緊急雇用創出事業（閉架書庫整理、光図書館蔵書の一部に I C タグ貼付、本多・光図書館文庫本背ラベル貼付）等説明。

2. 図書館サービスについて

意見：立川の都立多摩図書館が国分寺市に移転すると聞いているがどのような状況か。

図書館：平成 28 年春開館を予定している。基本設計は終わっている。都立図書館は利用者に直接本の貸出しはしていない。都立図書館は、広尾にある中央図書館が一般書を所蔵している。多摩図書館は雑誌のマガジンバンク、旧日比谷図書館の資料を引き継ぎ児童・青少年サービスが中心になる。児童書及び関係専門書や有料データベース情報サービス、インターネット、文学書は発行後 30 年以上の保存資料を所蔵している。国分寺市では、平成 30 年完成の国分寺駅北口再開発ビルに駅前分館を移転し、本のリクエストも引き続き受けるように考えている。

意見：読売新聞の夕刊紙の配架が遅い。4 時 50 分頃になることがある。

図書館：以前販売所と話をした時は、配布ルートが変わったためと言われたが、再度問い合わせをする。

意見：雑誌コーナーの照明が暗い。座って読む場所なので、照明に心がけてほしい。

図書館：夏は節電で、カーテンを閉めて断熱していた。暗い時にはつけるようにしていたが、目が届かない時もあり申し訳なかった。夏も過ぎたので、

開館時から点灯するようにしたい。

意見：子どもの読書計画は大変良いが、これから高齢者問題も深刻だ。子どもとの接触の場も必要である。高齢者が過ごす場所がほしい。そこで、図書館で①児童コーナーのようなテーブルで、子どもと高齢者が一緒に読書する「楽しみコーナー」のようなものがあつたらよい。②冷暖房の必要な時期、私は午後から来るのだが、空調を入れる時間を知らせてほしい。

図書館：今年の夏は節電のため、7月中は空調をなるべく使わず節電していたが、暑いというご意見もいただいた。8月になってからは開館時からつけている。光図書館は外が涼しくても中が暑く、空調の温度設定が難しい日がある。

意見：難しいとは思いますが不満は残る。

図書館：反省している。期待される施設としての像がある。昨年・今年と節電をし、大きいスペースで微調整が効かないが、28度くらいに保っていた。

意見：駐輪場の閉鎖をしていたが、再開しても違反者がいる。

図書館：駐輪場は30台収容する。駐車場内に停めるようお願いした。公民館・図書館・児童館で検討し、夏休み中の児童の駐輪の仕方がひどかったため、建物の周辺は閉鎖し、1時間おきに見回りをした。9月から再開の周知をして9月15日再開した。かなり良くなってきて通路にとまらなくなった。歩道にとめた自転車には張り紙をしている。

意見：同じ人が止めているのではないか。違反駐輪は鎖・鍵でロックするなどし、止めないように働きかけて、習慣にしてもらう必要がある。

図書館：ルールを守ってくださいというチラシを配布している。どこの館でも駐輪については問題があり苦慮している。

意見：閲覧席に受験勉強の人も来る。夏休みも子どもがたくさん来るがどう交通整理するのか。

図書館：夏休み中に、小・中学生の子どもが使っていて利用できないというご意見があつた。子どもたちは児童スペースを利用するように注意書きを貼り、大人の方用にスペースを確保している。荷物を置いて1時間帰つてこないような場合は、張り紙をして荷物を預かるなどもしている。カウンターから遠いので目が届かないが気をつけたい。

意見：本多公民館は公民館で部屋を確保していた。

図書館：2年前ぐらいに廃止した。本多公民館には青年室もあつたが、そこも会議室になった。図書館に設けるとなると、本棚を減らさないとスペースを確保することができない状況である。本多図書館は14席あるが、社会人席を2席設けている。時間制にする方法などの検討も行ったが、管

理が難しい。

意見：並木公民館はあるようだが。

図書館：並木公民館は1階ロビーに机を置いたスペースがある。設計段階で図書館が2階になった。団塊の世代が定年を迎え、ゆっくり憩えるスペースの工夫も必要であると考えている。

意見：電子書籍・タブレット端末の導入はどう考えているのか。

図書館：2010年は電子書籍元年と言われた。電子書籍については、全国で10市ぐらいが導入しているが、コンテンツが5,000タイトルぐらいでなかなか増えない。流通している電子書籍も9割は漫画になる。図書館は現在60万冊の蔵書の蓄積がある。電子書籍はこれからであると考えている。国会図書館でも著作権の切れた資料の電子書籍化している。これから電子化が進むと考えられるので、国分寺市も国の動向などに留意し、取り組んでいきたい。

意見：著作権も関係するののか。

図書館：著作権法の中の配信に関わる部分に関係する。図書館は「貸出」をすることになるので、読めるがダウンロードできないとか、ある一定期間を過ぎると見られなくなるなどの措置が必要になる。現在流通している電子書籍をすぐに公共図書館で利用することはできない。全国的な取り組みの中、国分寺市もいろいろな分野で進めていくことが必要だと考えている。

3. 第二次国分寺市子ども読書活動推進計画について

配布資料「国分寺市子ども読書活動推進計画 概要版」に基づき第二次計画の説明。

意見：朝読とは何か。

図書館：朝20分どんな本でもよいから読む時間を設けていると聞いている。

意見：ひよこシールはどこに貼るのか。

図書館：背表紙に貼り、幼児書のコーナーを設けている。

意見：取り組みは。

図書館：ブックリストをつくっている。おはなし会や映画会を全館で開催している。学校司書も毎日配置されるようになり、学校図書館も毎日開館している。コンピュータシステムも取り入れた。次期5年間の計画の策定に向け進めている。

図書館：今日はお越しいただきありがとうございました。これからも図書館をご利用いただきたくお願いいたします。

平成 24 年度第 1 回 国分寺市図書館利用者懇談会（いずみホール）

日 時 平成 24 年 10 月 4 日（木） 午前 10 時～11 時 30 分
場 所 いずみホール 会議室
参加者 市民 8 名（男性 1 名・女性 7 名）

1. 国分寺市立図書館の現状等について

配布資料「平成 23 年度国分寺市立図書館の状況」に基づき説明。

図書館では、住民生活に光をそそぐ交付金で、パネルシアター・エプロンシアターなどの舞台や作品を購入。

緊急雇用創出事業補助金で、21 年度から I C タグの貼付を始め、23 年度は並木図書館の蔵書に貼付。全館で C D 研磨。

平成 24 年度については、予算（図書費等資料費の削減等）、第二次子ども読書活動推進計画の策定、緊急雇用創出事業（閉架書庫整理、光図書館蔵書の一部に I C タグ貼付、本多・光図書館文庫本背ラベル貼付）等説明。

2. 第二次国分寺市子ども読書活動推進計画について

配布資料「国分寺市子ども読書活動推進計画 概要版」に基づき第二次計画の説明。

3. 図書館サービスについて

意見：泉町地区の図書館空白地域についてだが、都立多摩図書館に働きかけているようだが難しそうなので、文化のまちづくり課との連携で、いずみホールの中に駅前分館のような機能のある図書館を作れないか。本はたくさんは要らないので、建物を建てるのが難しければ、検討してもらいたい。また、図書館運営協議会の第二期の答申が出ていたら見たい

図書館：図書館運営協議会第一期では「市民サービスの向上を図るためのサービスのあり方」について答申していただいた。図書館の指針として、方向性を示していただいた答申になっている。第二期は諮問をしなかった。第一期の答申内容が大きいテーマだったので、具体的な進め方を検討していただいた。その他、子ども読書活動推進計画の進行管理を毎年していただき、図書館評価も検討していただいた。図書館評価は図書館の H P で公表している。第三期では「I T 技術の進展をふまえた国分寺市立図書館のサービスのあり方」について審議していただいている。

図書館：利用書懇談会は各図書館で行うほか、西国分寺駅周辺地区についても

行うようになって6年目になる。こちらの利用者懇談会の要望で、いずみホールにブックポストを設置した。この地域は都立多摩図書館の移転計画があり、平成28年開館予定である。都立多摩図書館はマガジンバンクとして、また日比谷図書館の児童サービスを引き継いで児童・青少年サービスをおもに行っている。都立中央図書館と役割分担しており30年以上たった本の保存庫の機能もある。ただし、個人への貸出は行っていない。国分寺市としては、リクエストなどの資料の受け渡しができる窓口を設けてもらえるように要望をしている。

意見：運営協議会委員を3期6年している。学校図書館も鍵がかかっている状態から図書指導担当が配置され、利用が素晴らしく伸びた。カラーのブックリストも年代別に作成され、子どもの読書活動推進の大きな流れができた5年間だった。第二次計画の策定に対しても、ここで話した事は行政の上に届いていくので、懇談会の参加者の方は市民の意見を出してほしい。

意見：最近引っ越してきた。駅前分館や本多図書館を使っているが、家の近くに図書館がなくて大変不便。都立図書館が移転してくるので、せめて本の受け取りができればいいと思っていた。住民サービスとして都立図書館の個人貸出ができるようになるといい。以前住んでいたところの図書館はDVDが借りられたので、国分寺市でも検討してほしい。閉館時間が5時というのは利用する側としては厳しい。また、傷んでいる蔵書が多く手入れされていない感じがする。書架に本を詰め込みすぎて引き出せない。子どもはもっと出せないと思う。子どもの目線で考えて、入れ方を工夫してほしい。リクエスト本の貸出しについて、前に利用していた図書館では家族であれば貸出しをしてもらえた。国分寺市でも貸出ししてもらえるといいと思う。

図書館：西国分寺駅周辺に図書館がないことは、図書館としても課題だと思っている。DVDは高価な資料なので国分寺市では今のところ所蔵できていない。傷んでいる蔵書は買い替えなければいけないが、なかなか買い替えができていない状況で申し訳ない。書架は適宜除架しながら取り出しやすい棚にしていく。夜間開館は、現在本多図書館で火曜日から金曜日の平日、光図書館が水曜日に午後8時まで開館している。他の館でも夜間開館について検討していかなければと考えている。リクエスト本の家族への貸出については、図書館のシステム上現在はできない。国分寺市は個人情報保護の観点から本人のカード番号で貸出しを行うようになっている。家族でも本人のカードを持ってきていただければ借りられる。家族登録のリンクはしていない。

意見：最近引っ越してきた。子どもの本の翻訳の仕事をしている。また、紙芝居文化の会の仕事もしている。計画の中で紙芝居の位置づけはどうなっているのか。近くに図書館がなくて困っている。

図書館：第一次の計画作成時に関係各所にアンケートを取り要望をいただいた。保育園・幼稚園に役立つ「行事向けかみしばいリスト」を発行している。

意見：4小・4中に子どもが通った。この地域に図書館を建てるのはあきらめムードがあるが、いずみホールブックポストは助かっている。児童館と連携はできないか。いずみ児童館が図書館のかわりにならないものか。4小・4中に通う子どもに図書館に行くという経験をさせられず、かわいそうだと思う。駅前に公団住宅が建ち、人口が増えているので、できることから取り組んでほしい。

意見：集合住宅を建てる時に一角を図書館にすることは不可能ではないのでは。今後これからマンションの建設計画があった時に図書館が交渉していくということもあるのではないか。

図書館：図書館は中学校区に一館という方針で設置してきた。いろいろな方法を考え実現できるようにしていきたい。

意見：子ども読書の第一次計画の検討から5年経っている。その間にやろうと思えば市の施設の中に分館のようなものができたと思うが、それをしなかった。この地区には駅前分館のような出先機関もない。進行中の計画が何もない。都立図書館は雑誌の専門図書館だから個人では使えない施設だ。いずみホールにブックポストだけ設置して喜んでいてはいけない。図書館をどこかに置こうという気がなかったのは納得できない。今後は、年齢構成は高齢者が多くなり子どもの状況も変わる。対高齢者も含め図書館の分館や出張所をつくるべきではないか。泉地区は当然図書館があるべき地域。教育委員会は職務怠慢ではないか。

意見：高齢になると重い本を持って運ぶのも難しくなる。移動図書館を動かしてもらえると高齢者も障がい者も使いやすい。

意見：都立図書館ができるので期待していたが、やはり一角でも無理なのか。

図書館：東京都とは引き続き交渉しているがなかなか難しい。都有地には、小金井特別支援学校が建替えの間は泉町に移転する計画がある。

意見：市はゴミのチケット販売をコンビニと提携して行っている。リクエストの本もコンビニで受け取ることができれば便利だ。夜8時までには図書館に来られない人向けに、具体的にできることから始めたらどうか。

図書館：コンビニでの本の受け取りは行政体の大きい所沢市で行っていた。

意見：リクエストの本は複本購入しないのか。

図書館：リクエストが多い本は各館2冊ずつ、市内で計10冊まで用意している。

受け取りにきた利用者に延長できない旨をお伝えし、なるべく多くの方に利用していただけるように工夫している。また、読み終わった本の寄贈の依頼をポスターやHPで呼びかけている。

意見：もとまち図書館を利用して助かっている。乳幼児コーナーが小さいので府中市のように扉で仕切れるお話の部屋があったら理想的だと思う。

意見：中央図書館がないのも課題だ。

図書館：中央館は以前検討したこともあるが実現しなかった。現有の施設で新たなスペースを広げるには書架を減らすことになり、難しい。

意見：子どもの居場所という意義づけも図書館の役割にあると思う。居場所といえば児童館との連携がいいのではないか。

意見：図書館の独自スペースを取ってほしい。部屋はどこも必ず公民館と一緒に、おはなし会をやっているメンバーとしては、優先で使用できる部屋がほしい。

図書館：国分寺市の成り立ちとして、図書館は公民館とともに設置され、発展してきた。良い面もあるが施設の使い勝手ではデメリットもあり、部屋の確保が難しくなっている。図書館が優先的に使える部屋は、現在恋ヶ窪図書館の「おはなしの部屋」のみになる。

意見：その部屋を市民は使えないのか。

図書館：おはなし会を行ったり、図書館の会議室として使用している。また、公民館保育の保育室としていつも使っており空いていない。

図書館：本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。いただいたご意見に少しでも応えていけるように努めていきたいと考えています。

平成 24 年度第 1 回 国分寺市図書館利用者懇談会（恋ヶ窪図書館）

日 時 平成 24 年 10 月 6 日（土） 午前 10 時 30 分～12 時
場 所 恋ヶ窪図書館 おはなし室
参加者 市民 6 人（男性 5 人・女性 1 人）

1. 国分寺市立図書館の現状等について

配布資料「平成 23 年度国分寺市立図書館の状況」に基づき説明。

恋ヶ窪図書館では、住民生活に光をそそぐ交付金で、雑誌コーナーの椅子と図書を購入。

緊急雇用創出事業補助金で、21 年度から IC タグの貼付を始め、23 年度は並木図書館の蔵書に貼付。全館で CD 研磨。

平成 24 年度については、予算（図書費等資料費の削減等）、第二次子ども読書活動推進計画の策定、緊急雇用創出事業（閉架書庫整理、光図書館蔵書の一部に IC タグ貼付、本多・光図書館文庫本背ラベル貼付）等説明。

2. 第二次国分寺市子ども読書活動推進計画について

配布資料「国分寺市子ども読書活動推進計画 概要版」に基づき第二次計画の説明。

3. 図書館サービスについて

意見：退職して図書館にお世話になっている。立川市や国立市の図書館もよく利用している。他市に比べ建物が狭苦しくお粗末。建物を良くしてほしい。都立多摩図書館にはロッカーもある。国分寺市では荷物を置くところもない。

図書館：多摩地域の中央図書館の平均的な面積が約 3,400 m²。国分寺市は全館あわせても 3,400 m²ぐらいで、他市の中央図書館 1 館分ほど。大型の図書館が課題となっている。図書館運営協議会からも、5,000 m²ぐらいの大きな図書館をというご意見をいただいている。歩いて行けるところに、ある程度の規模の図書館があるのは国分寺市のいいところという意見もある。今しばらくは新たな図書館をつくるのはなかなか難しい。その分、他のところで工夫していきたい。

意見：市内にない本も立川市や国立市にある。それらを検索できないか。

図書館：利用者用のインターネット端末を各館 1 台設置しており、調べられる。あとは職員が調べて取り寄せもできる。都立や他市の図書館からも取り

寄せすることができる。リクエストサービスを活用してほしい。

意見：国立市は、高齢で歩行不可能な人には、家まで本を届けるサービスがある。国立市ではボランティアの人が届けてくれているようだ。

図書館：国分寺市でも郵送貸出のサービスがある。返却時は同封の返信用封筒で郵便ポストに入れていただくことになる。

意見：「読書人」「図書新聞」は、市内に1館しか置いていない。図書館なのに全館に置いてないのはおかしい。特に中心館の本多には置いておくべき。新聞は取り寄せできない。コピーをしたいが、図書館のコピー用紙は劣悪で見にくい。図書館の紙ももっと良いものにしてほしい。そんなに予算逼迫しているのか。

図書館：新聞は現在取り寄せができないが、最新号以外の取り寄せができるように検討している。今年度の図書費は全館で2000万円と厳しい。雑誌費も今年度100万ほど削減したので、各図書館で重複している雑誌は所蔵する館数を減らし、総点数を減らさないよう工夫した。コピー用紙は市で決められた用紙を購入している。「一時持ち出し」というかたちがあるので、近くのコンビニでコピーも可能である。きちんとルール化し、周知していくようにしたい。

意見：この近所に住んでもう12年になるが、地域のコミュニティがない。自治会もない。このあたりにそういう活動はあるのか。

図書館：自治会はそれぞれの地域にあると思う。市役所の協働コミュニティ課が自治会との連絡の窓口になっている。

意見：子どもの読書活動の推進については、お母さんたちがもっとこういう場でディスカッションした方がいいと思う。お母さんたちは本を読むのか。

図書館：学校で読み聞かせなどをしているので、本を読む機会がある。恋ヶ窪図書館は30代40代の利用が少ない。今日は男性が多いが、ほかの懇談会ではお子さんを育てている世代の女性も多く参加していた。

意見：本は重複して各館においてあるのか。

図書館：本については選書会議をして選んでいる。小説や旅行ガイドなどは重複しているものもある。他の本は、なるべく多くのタイトルを所蔵できるように、市内全体で1冊は購入するように調整している。

意見：館によって置いてある本の特色はあるか。

図書館：光図書館には映画関係の本や鉄道関係が多いなど、テーマで多少分担はしている。5館の規模があまり変わらないなか、近くの図書館に行けば比較的各分野の本が揃っているというように考えている。恋ヶ窪図書館は地域資料担当館になっている。

意見：まちづくりセンターで環境やまちづくり関係の本揃えている。図書館と

連携できないかと模索しているところ。郷土史などの本も予算の範囲内で集めていこうと思っている。図書館は、予算で縛られている部分はあるが、もう少し工夫しないといけないのではないか。利用者懇談会で出た意見を広く周知していかないと上に通じない。学校図書館との連携という話もあるが、学校図書館の人にも参加してもらったらどうか。運動会と日程がぶつかってしまったのもいかなものか。民営化（委託）されているところでは、本の宅配なども気軽に対応している気がするので、市の図書館も対応していった方がいい。

図書館：図書館HPなどで、まちづくりセンターと連携していきたい。運動会と重なってしまったのはリサーチ不足だった。学校図書館の人に来てもらうことも必要なことだと思うが、現状はなかなか難しい。民営化については、サービスの向上とコストの削減のためどういう形がいいのか検討している。多摩地域では6市で業務委託や指定管理を導入している。PFI方式で建物を作り、業務の一部を委託しているところもあり、民間の力を活用するいろいろな方法がある。

意見：図書館そのものには収益があるわけではない。PFI方式にしても、税収がないとどんどん先細りになっていくのではないか。

図書館：運営方法がどういう形でも、人件費が課題になる。図書館法では「図書館の利用は無料です」とうたわれている。この「おはなしの部屋」だけが図書館が持っている唯一の部屋。選書会議やお話し会などで活用している。

意見：自動貸出のシステムを導入する予定はあるのか。その予定がないのにICタグを貼るのはもったいない。機械が高額なので無駄になるのでは。

図書館：平成21年から本多、恋ヶ窪、並木と順次ICタグを貼付している。すべての蔵書に貼付後、ICタグを活用した運用を予定している。

意見：府中市中央図書館は夜10時まで開館している。人件費がかかるという問題もあるが、長く開けているほうが利用は増える。勉強用のスペースも用意した方がいい。本多公民館の2階のホールはいらぬのではないか。いっそ図書館にしたらいいと思う。

図書館：夜間開館は、現在本多図書館で火曜日から金曜日の平日、光図書館で水曜日に午後8時まで開館している。他の館でも夜間開館について検討していかなければと考えている。土・日・祝日開館をしているので、仕事されている方たちも利用していただけるとありがたい。現在、祝日と重なっている月曜日を休館しているので、開館できるように考え検討をしている。勉強用スペースについては、国分寺市の図書館はどこも面積が狭く、スペースがないため課題である。現在の建物にスペースをつく

るのは難しい。今ある机や椅子を少しでも有効活用できるように考えていきたい。本多のホールは普段利用でかなり埋まっている。

意見：子どもの利用登録の際、パスワードの登録を断られた。銀行のカードは子どもでも作れるのにどうしてか。子どものために予約をしてあげたいので、パスワード作れた方が便利。

図書館：利用カードを作るときには、乳幼児の場合でも、来館していただければ親の代筆で登録できる。パスワードについては、電子データになるため、個人情報保護の観点から、自分で管理できる方に限定させていただいている。一般的には小学校高学年ぐらいからパスワード登録をしている。小学生以下は証明書がなくても利用カードの登録はできるが、パスワードについては、個人情報にかかわることなので、本人確認ができるという前提で申請していただくため、証明書が必要になる。

意見：「AERA with Baby」という雑誌がすごくいいのでぜひ入れてほしい。

図書館：雑誌については年度契約なので、雑誌担当に要望を伝えておく。

意見：CDは、他市に比べいいものを揃えていると思う。その分、利用されていないようなのもったいないと思う。リクエストもあまり入っていない。もっと広報したらどうか。

図書館：CDは市内全館で約 8,000 タイトル所蔵している。新しく入荷したものは新刊コーナーで紹介しているが、PRの仕方を工夫していきたい。

意見：本の入れ替えの判断基準はどうなっているのか。

図書館：基準をもうけており、古くなった本は、内容や貸出状況から判断して除籍している。

意見：ベストセラーやジャンルの枠の配分はどうなっているのか。人気のないジャンルの棚はすかすかで、人気のある作家の棚はぎちぎちになるのではないか。

図書館：おおよその配分はしているが、毎朝の書架整理の時に引き抜きをしている。時代とともに内容が古くなかった本は事務室内に閉まっている。恋ヶ窪図書館では人気のある本を一時的に展示コーナーに置くなどして調整している。年に一回の蔵書点検の休館時に、大がかりに棚を動かすこともある。

図書館：今日はお忙しいところ、ありがとうございました。またご参加いただきご意見をお寄せください。

国分寺市図書館利用者懇談会 平成24年度第2回

もとまち図書館 日 時 1月25日(金) 午前10時30分～12時
場 所 もとまち公民館 会議室
参加者 市民5名(女性5名)

本多図書館 日 時 1月29日(火) 午後6時～7時30分
場 所 本多公民館 集会展示室
参加者 市民0名
事前意見提出 1件(市民1名 男性)

光図書館 日 時 2月2日(土) 午後14時～15時30分
場 所 光公民館 小会議室
参加者 市民2名(男性1名・女性1名)

配付資料：「新本多図書館駅前分館の検討案」

「再開発ビルの公益施設についてのアンケート」関係資料

平成 24 年度第 2 回 国分寺市図書館利用者懇談会（もとまち図書館）

日 時 平成 25 年 1 月 25 日（金） 午前 10 時 30 分～12 時
場 所 もとまち公民館 会議室
参加者 市民 5 人（女性 5 人）

1. 国分寺市立図書館の現状等について説明

- ①「第二次国分寺市子ども読書活動推進計画（案）」のパブリック・コメントについて、12 月 1 日から 1 月 8 日まで意見募集をし、4 人の方から 29 件の意見をいただいた。これから整理し、第二次計画を今年度中に策定予定。
- ②配布資料に基づき、国分寺駅北口再開発事業に係る新・駅前分館の説明及び意見募集について、図書館の検討案等について説明。
（配布資料「平成 23 年度国分寺市立図書館の状況」「国分寺駅北口再開発の意見募集」関係資料）
- ③市内各図書館（駅前分館を除く）の蔵書点検と恋ヶ窪図書館の書架の入れ替えのための臨時休館について、2 月から 3 月にかけて実施する。

2. 図書館サービスについて

意見：図書館のおはなし会は学校が早く終わる水曜日に開催されているが、水曜日は文庫や地域のイベントもあり、また習い事がある子どもも多いので、他の曜日への変更も検討してもらいたい。そうすれば、興味をもった子どもが参加しやすくなると思う。

図書館：おはなし会の曜日については図書館でも試行錯誤しているが、子どもの利用状況も見ながら考えていきたい。

意見：曜日によって時間割が決まっているので、子どもが早く帰れる曜日に設定することも考えてほしい。

図書館：市内各図書館で重ならないようにしているが、各館と情報交換をしながら検討していきたい。

意見：図書館の書架がいっぱい、本が横になっていることがあるので、何とかならないか。閉架書庫の問題があるのはわかっているが、書架の本を見やすいようにしてほしい。

図書館：もとまち図書館は、閉架書庫がなく、書架に本があふれている状況で、利用しにくく申し訳ない。日々の書架整理や引き抜き作業に努めるようにする。併せて、今年度緊急雇用を利用して本多と光図書館で書庫の整理作業をしている。都立図書館や多摩地域の図書館が持っている本を除籍して

スペースを確保し、もとまち図書館の本も移動できるように検討する。

意見：以前に比べて、図書館のカウンター職員に笑顔がないように感じる。

図書館：図書館はサービス業でもあると考えているので、全職員に笑顔を心かけるように周知し改善するようにしたい。

意見：図書館がせつかく公民館と併設しているので、講座などで図書館の資料情報や資料そのものを提供するなど、お互い協力し合ってほしい。

図書館：図書館としては公民館とも話しているが、お互いの連絡が不十分であるようなので改善を図り、協力体制をつくっていききたい。

意見：公民館と市民グループの共催の場合、関係する資料を並べたい場合はどのようにすればよいか。

図書館：図書館としては、資料の所在が分かるようにすることが必要であるので、団体登録をしていただき、その団体が借りることは可能であると考えている。公民館も団体登録している。

意見：4月の第一週に障害者週間があるので、今年も関連資料の展示をしてもらいたい。

図書館：図書館の館長会議で話し、他の館でも展示ができるように考える。

意見：福祉の課と図書館とのコラボレーションは可能か。

図書館：以前男女平等人権課と行ったこともあるので、声をかけていただければありがたい。

3. 新・駅前分館について

図書館：平成25年の夏頃に再開発事業の工事が始まる予定で、現在の駅前分館が入っている建物も解体される。現在の駅前分館はたいへん利用されていることを考慮し、駅に近い場所に移転する予定である。国分寺駅北口再開発ビル完成後、新・本多図書館駅前分館は西街区ビルの5階に移転する予定。現在、市として「再開発ビルの公益施設についてのアンケート」で意見を募集している。図書館でも検討プロジェクトを設け検討し、「新・本多図書館駅前分館検討案」を作成してきたが、皆様のご意見を伺いながら今後さらに検討していきたいと考えている。

意見：図書館の位置と大きさの確認をしたい

図書館：図書館の位置は、5階の北側部分を考えている。大きさは現施設の倍で約160㎡を予定している。

意見：現在の倍の大きさよりもっと広くならないのか。

意見：当初は400㎡の予定ではなかったか。

図書館：図書館は集客力のある施設だと考えられるので、図書館としては少しでも大きい施設をと思うが、市の方針は資料にあるとおりである。

意見：民間活用スペースは国分寺市が使うものとは違うのか。

図書館：市の施設ではなく民間活用エリアなので民間事業者に貸すことになる。

意見：そこに集会施設が入れるようなスペースはあるか。

図書館：民間事業者の業務内容による。

意見：市と協働での施設になるのか。

図書館：喫茶とかカフェ，地場産業の販売所，子どもの教室等も考えられるかもしれない。以前都市開発部で意見募集をした時にも，いろいろなご意見が集まっていた。

意見：民間活用エリアの事業者が決まったら，その場所の使用内容については固定してしまうのか。レンタルスペースとしての利用はできないか。

図書館：民間事業者の内容によるが，週替わりで貸出しすることもあるかもしれない。Lホールにもギャラリーができ，市民の方が利用できるスペースになる。

意見：本の読み聞かせコーナーにはならないか。

図書館：民間事業者がどのように提案してくるかにより決まる。

意見：民間活用エリアではなく，その部分を図書館にしてほしいが，民間のスペースになることにより国分寺市の収入になるのか。

図書館：国分寺市の収入になる。5階部分は市の権利床になるため，市の施設については収入にはならないが，民間活用エリアは市の収入になる。

図書館：新・本多図書館駅前分館について，再開発ビルの中という立地の利便性を生かした図書館にするために「新・本多図書館駅前分館の検討案」のような内容の施設を考えているが，このことについてご意見があれば伺いたい。

意見：160㎡の中に事務室も入るということは，蔵書はどのくらいになるのか。

図書館：スペースの取り方や資料の並べ方によっても変わるが，半分の80㎡ぐらいが書架部分と考えている。

意見：新・本多図書館駅前分館はどのような本が並ぶのか。

図書館：駅前分館のコンセプトとして開館当初からの機能は外せないので，地域情報のサービスを行う図書館として，地域・行政・郷土資料の収集と提供が中心になる。

意見：イメージとして，紀伊國屋書店のカウンター後方ぐらいの量の本が並ぶのか。

図書館：何を置くかによっても変わるが，恋ヶ窪図書館が地域資料の中心的図書館であることは変わらないので，現在の駅前分館のような資料が中心となる。

意見：現在の駅前分館の資料が中心となると，子どもたちが入りやすい図書館

というイメージではない。

図書館：再開発ビルの上は住宅になるため、図書館としても行政資料だけいいのかどうか考えることが必要であると思っている。

意見：行政資料中心の図書館だと、集客力があまりないのではないか。これだけの住宅が入るなかで、子ども連れの市民が本を読める図書館や、一般の市民が広く利用できる図書館が望ましい。図書館のスペースを広げれば、国分寺市としても良い宣伝になるのではないか。

図書館：地域・行政資料は外せない部分であるが、その他の部分については皆さんのご意見を伺っていきたい。

意見：ブックポストについては、図書館のある5階だけでなく、利用する側のメリットを考えて返却しやすい場所、例えば1階部分にも設置してほしい。

図書館：他市の駅ビルなどの図書館でも、たいてい1階部分などの人の多いところにブックポストが設置されている。利用しやすい場所に設置できるように、図書館としても要望していかなければならないと思っている。

意見：ふるさと文化財課とのコラボレーションの展示は、図書館の中になるのか。現在のLホールの展示は外に出ていて、目に留まりやすく良いと思うので、展示については図書館の外にしてほしい。

図書館：どのようにコラボレーションするかは検討中だが、図書館とLホールの開館時間との差が大きい場合のこともあるので、その中で図書館との一体感を大切にしていきたい。

意見：赤ちゃん連れや子ども連れでも入りやすい雰囲気やスペースがあると、市民課の他にも立ち寄れる場所になってよいと思う。その他、キッズスペースやおむつ替え・授乳室等があると利用しやすい。

図書館：現在の駅前分館でも、ご要望により図書館で発行しているブックリストの紹介も含めて絵本や児童書を置いている。親子連れの小さな子どもがそこから借りている姿も見られるので、新・駅前分館のアイデアとして考えたい。

意見：入口に子どもの本を少し置くだけでも違うと思うので、子どもの本のコーナーがあるとよいと思う。

意見：西街区ビルに書店が入るという情報はあるか。もし書店が入れば相乗効果が見込まれると思う。

図書館：現在の段階では書店が入るとは聞いていない。

図書館：本日いただいた図書館へのご意見については、今後検討していきたい。

図書館も含めた市の権利床についてのご意見があれば、もとまち図書館や各図書館に置いてあるアンケート用紙に記入して意見箱に入れていただくとありがたい。本日はお忙しいところありがとうございました。

平成 24 年度第 2 回 国分寺市図書館利用者懇談会（本多図書館）

日 時 平成 25 年 1 月 29 日（火） 午後 6 時～
場 所 本多公民館 集会展示室
参加者 なし（文書でのご意見 1 件，以下のとおり）

1. 図書館の性格上，館内は静かなことその他，雰囲気たまに一寸陰気な感じを受ける。明るく華やかな面が出せないか。
案として，館内に春・夏・秋・冬の四季を飾り，その風情を演出する。具体的には，「ポスター」や「写真」等々の媒体により，各地のお祭りや行事，希少性のある写真など展示を行う。媒体については，地元の観光協会や行政の観光課などで用意も可能の筈。青森のねぶたのポスターは圧巻。問題は，館内に掲示するスペース。
2. 図書館サービスの 1 つとして，書籍を探す手助け。
本の内容は大方理解しているものの，著者，発行元を存じないケース。古本屋の分野かも知れないが，サービスの 1 つとして，いかがか。
3. 館内の奥にある個室風の机を除去し，テーブルすれば，より多くの人の利用につながる。
4. 図書館は地元の情報発信基地としての効用性は高いと思われるし，今後の傾向はそのようになるのではないかとされている。
例えば，市役所の情報類，開発中の北口再開発の見通し，世界に誇る日立中研やリオンの企業群，アニメのタツノコプロ等々，その他，市内在住の著名人・有名人の紹介，当地の物産品など。

平成 24 年度第 2 回 国分寺市図書館利用者懇談会（光図書館）

日 時 平成 25 年 2 月 2 日（金） 午後 14 時～15 時 30 分
場 所 光公民館 小会議室
参加者 市民 2 人（男性 1 人・女性 1 人）

1. 国分寺市立図書館の現状等について説明

- ①「第二次国分寺市子ども読書活動推進計画（案）」のパブリック・コメントについて、12 月 1 日から 1 月 8 日まで意見募集をし、4 人の方から 29 件の意見をいただいた。これから整理し、第二次計画を今年度中に策定予定。
- ②配布資料に基づき、国分寺駅北口再開発事業に係る新・駅前分館の説明及び意見募集について、図書館の検討案等について説明。
（配布資料「平成 23 年度国分寺市立図書館の状況」「国分寺駅北口再開発の意見募集」関係資料）
- ③市内各図書館（駅前分館を除く）の蔵書点検と恋ヶ窪図書館の書架の入れ替えのための臨時休館について、2 月から 3 月にかけて実施する。

2. 図書館サービスについて

意見：高校生だが通学に 1 時間半かかるので、閉館時間を最低 6 時にしてほしい。光図書館の夜間開館の水曜日は塾があつて行けない。

意見：学生や勤め人は 5 時まででは難しい。年配者は朝から時間があるので、10 時からの開館時間を 9 時半に変えてもらった。時間延長はこれからますます必要性が出てくるだろう。

図書館：現在の本多図書館の夜間開館も、段階を踏んで時間を延ばしてきた経緯がある。本多図書館も光図書館も利用が年々増えてきている。工夫しながら考えていきたい。

意見：どの曜日、どの時間帯にニーズがあるのか組み合わせを考えながら実現させてほしい。

意見：勉強をするスペースを広げてほしい。

図書館：自習室のようなスペースは市内の図書館には設けていない。調べ物をする席は各図書館に若干あるが、広げるためには本棚のスペースを削るしかないのが難しい。

意見：並木図書館を利用しているが、文学者で有名な人の作品はほとんど読んでしまったので、作家からではなくタイトルから本を選ぶようになったが、馴染みのない作家の作品は読みにくい。知らない作家の本もたくさんある。

光図書館は小説と随筆が分かれて置いてあるが、並木図書館は一緒に置いてある。分かれて置いてある方が選ぶのが楽。

図書館：並木図書館は、カウンターの近くに実用書を置くなど、書店に近い並べ方になっている。カタカナのみの1段ラベルの本が小説で、2段ラベルの本が随筆になっている。

図書館：出版点数が一年間で約8万冊と以前より増えている。雑誌も対象年代別に細分化され出版されている。リクエストなど利用のニーズを考えながら選んで購入している。

意見：リクエストをすれば買ってもらえるのか。

図書館：購入のほか他館から取り寄せをするなどして提供している。パスワードの登録をしていれば、図書館ホームページからも予約ができる。他市からの取り寄せは2～3週間かかることもある。購入だと10日から2週間位で用意できる。市内に無い本は用紙に書くか、電話でも受け付けをしているので利用してほしい。

意見：学校の図書館にいつもリクエストをしていた。学校図書館に無い本は2～3ヵ月待たされた。これからは図書館のリクエストを活用したい。

図書館：是非、利用してほしい。

3. 新・駅前分館について

意見：面積が倍になるそうだが、今までの分館をそのまま移すのか。

図書館：検討案に書いてあるようなことを考えている。雑誌や新聞の種類を増やす予定。今は置いていない週刊誌やビジネス誌なども置きたい。

意見：少なかった資料を増やすということなのか。一般書や専門書は用意するのか。

図書館：駅前分館ができた経緯として、「市の行政資料を市民に提供し協働のまちづくりを」ということがあった。分館が入るビルの上には住宅が入るので、本を求める人たちの総合窓口としての役割の強化を考えている。一般書や児童書についてはご意見を伺いながら考えていきたい。

意見：ビルの中に公のスペースは5階部分だけなのか。せつかくの駅ビルなのに公共スペースが狭くもったいない。上の階には住宅がたくさん入るのだから、多くの住人が下に降りてすぐ使える本多図書館のような図書館があると便利なのに。本多図書館が近くにあるのでそこまでは無理だとしてもフロア全体のスペースの1割とは狭い。

図書館：どんな本を置いてほしいか。

意見：持ちやすい文庫本。

意見：住宅棟には小・中・高校生も多く住むだろうから修学旅行の参考本など

あると良いと思う。OLや女子大生向けの雑誌は。

図書館：ファッション誌等婦人誌まで置くとかかなりのスペースが必要になる。

雑誌は厳選して置くことになる。他の館には婦人誌もあるので、リクエストをしてもらい、駅前で受け取ることで便利に使っていただける。今も駅前分館のリクエストは並木図書館やもとまち図書館より多い。

意見：国分寺の歴史について考える本を置くようなので、一般書はあきらめるので、専門的に勉強したい人も使えるように、他の図書館とは違った特色のある本揃えをしてほしい。

図書館：地域資料は恋ヶ窪図書館が中心で集めている。光図書館には国分寺だけでなく多摩地域の資料を集めたコーナーもある。本多、並木、もとまち図書館にも広くないがコーナーがある。

意見：新田開発や武蔵野うどんなど、地元の昔の人の生活を知る本があると良い。一般書がなくてもニーズに対応した自慢できる施設にしてほしい。

図書館：地域資料や行政資料のほか、地元の観光案内的な本も必要だと考えている。駅の近くにあることが大切。

意見：文化の香りを出す良いきっかけになるのではないか。歴史・観光を知る展示など、他館にはない良いアイデアで工夫してほしい。

意見：本は多ければ多いほど良い。個人的な希望としては「司書のおすすめ週刊ベスト」みたいなことを今の図書館でもあると良いと思う。

図書館：季節ごとのテーマ展示などは各館で行っている。希望のテーマがあれば図書館職員に教えてほしい。

意見：ちょっとした飾りのある展示でも目に入りやすく、季節の移り変りを感じられて良い。震災後も震災関係のいろいろな本の展示があり良かった。本棚を番号順に端から端まで見て借りる本を選ぶのは大変なので、展示がされているのは良いことだ。

図書館：各図書館で工夫してテーマ別展示をしている。6月の環境問題、8月の戦争と平和の展示は全館同じテーマで展示している。駅前でも他館から本を集めてテーマ別展示をしていくのも良いかもしれない。

意見：各館の協力をあおぎながら行ってほしい。学校図書館でも図書委員と一緒に展示をして、生徒に興味を持ってもらえると良いと思う。

図書館：本日いただいた図書館への意見については、今後検討していきたい。図書館も含めた市の権利床についてのご意見があれば、各図書館に置いてあるアンケート用紙に記入して意見箱に入れていただけるとありがたい。本日はお忙しいところありがとうございました。